

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ミントとやま1F)

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 0270101488 | | |
| 法人名 | 株式会社 ライフセーバーコーポレーション | | |
| 事業所名 | グループホーム ミントとやま | | |
| 所在地 | 青森市戸山赤坂463-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年9月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年12月20日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に囲まれ、四季折々の変化を感じる事ができる。また、優しい地域住民にも恵まれ、地域の中に溶け込み、地域の行事にも参加して、楽しい毎日を送っている。看取り介護に近い方も年々増えてきている中、近い将来、スムーズに看取りに移行できるよう体制を整えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人青森県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階 |
| 訪問調査日 | 平成23年10月17日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切に考え、町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。ゲートボールの参加やホームの目の前にある緑地公園での桜の花見、戸山中学校の文化祭や運動会等の地域の行事に参加している。また、戸山中学校・地域住民の介護教室、外出の支援等、利用者、家族、地域住民が交流できるような機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

| 自 外 己 部 | | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作成し、ケアカンファレンス等、折に触れて話し合いをし、ケアプランにも結び付けている。 | ホーム独自の理念は地域密着型サービスの役割を反映させたものであり、管理者及び職員は地域との関わりを大切に、日々のケアに努めている。また、玄関への掲示や会議・勉強会等にて理念を日々確認しており、利用者は人生の大先輩であるということを常に心掛けて、支援をしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内のごみ置き場の清掃をしたり、子供の会の廃品回収の協力や行事等の手伝いも含めて参加し、交流を図っている。 | 町内会に加入しており、町内のゲートボール大会等の行事やゴミ置き場の清掃、廃品回収の協力等も行っている他、中学校の文化祭や運動会等にも積極的に参加し、日常的に交流を図っている。また、事業所が地域に果たすべき役割を理解しており、介護・認知症について講演をする等、ホームを理解してもらえるような働きかけも行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 各学校、事業所より、実習生やボランティアを受け入れ、その際は細部にわたり、指導や助言をしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 参加メンバーの方々から様々な意見を出していただけるような雰囲気作りを心がけている。また、そこで出た様々な意見や情報をホームの運営や日々の業務に結び付けている。 | 会議は2ヶ月毎に開催しており、事前に資料を送付し、積極的に参加を促す取り組みを行っている。会議では運営の方針・年間の行事予定の報告や情報交換等、活発な意見交換をし、出された意見は日々のサービス向上につなげている。また、自己及び外部評価の結果も報告し、意見を求めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には必ず地域包括支援センター職員が参加している。また、市の職員にも必ず知らせ、参加できなかった際には毎回報告書を提出している。 | ホームの運営面で疑問や相談事があった場合には、電話または直接出向いて助言等を得ている他、地域包括支援センターにホームのパンフレットや広報誌等を配布している。運営推進会議には市役所職員が年1回、地域包括支援センター職員は毎回出席しており、市役所職員が参加できない時には報告書を提出している。 | |

| 自己外部 | | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|-----|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 6 | (5) | <p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p> | <p>ホール入り口のドアに鈴を付けたり、センサー等で出入りが分かるよう工夫し、施錠はしていない。また、外出願望の強い利用者には職員が付き添う等、支援している。</p> | <p>全職員は身体拘束の弊害や拘束が必要となった場合の正しい理解を研修等を通じて習得している。玄関のセコム設定やホールへ入るドアへの鈴の取り付け等により、利用者の出入りがわかるように工夫しており、無断外出時に備えて、日頃から地域住民から協力を得られるような体制である。また、やむを得ず身体拘束が必要になった場合に備えてマニュアルを作成しており、記録を残す体制や家族から同意を得る体制も整備している。</p> | | |
| 7 | | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>マニュアルを作成し、職員に周知している。また、職員との意思疎通を密に図り、虐待を察知できるよう努めている。</p> | | | |
| 8 | | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> | <p>外部研修、内部研修を通し、理解するよう努めている。</p> | | | |
| 9 | | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>入居時に十分な時間をとり、説明している。</p> | | | |
| 10 | (6) | <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>投書箱を設置している。また、事業所内外に苦情受付窓口があることを入居時に説明したり、定期的にホーム便りに掲載している。</p> | <p>内外の苦情相談窓口を明示している他、家族が意見を出しやすいように投書箱を設置し、苦情・要望等の把握に取り組んでいる。また、マニュアルを作成し、記録を残す様式も整備しており、出された意見や苦情等については職員会議等で検討し、利用者や家族に報告している。</p> | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に個人面談を行っている。 | 管理者は、毎日の引き継ぎや毎月の職員会議の他、年2回の個人面談等を通じ、職員の意見を聞く機会を設けており、職員から出た意見は真摯に受け止め、運営やサービス提供に反映するよう取り組んでいる。また、職員の異動はなく、行事を全ユニットで行う等、日頃から利用者と職員が馴染みの関係を築けるように配慮している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回、健康診断を行い、健康管理に努めたり、随時就業規則の見直し等を行っている。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は職員に合わせた研修計画を立て、個々の力量に応じた向上が図られるよう努めている。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 東部地域圏内(8ヶ所)のグループホームが集まり、勉強会を行っている。ホームからも毎回参加し、交流を図っている。 | | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 必ず本人に直接会い、面談を行っている。その際本人、家族、関係者から十分な情報を得よう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居申し込みの段階から、本人家族からの聞き取りを十分に行い、入居するまで定期的に連絡する等、信頼関係を築くよう努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時の説明では、家族に入居までの経過や心身の情報等の基本情報を書いてもらい、十分な理解に努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者が前向きに生活していけるように、一人ひとりの好きなこと、楽しめることを尊重し、家事の得意な利用者に対しては、洗濯たたみや食器拭き、料理の盛り付け等の作業を一緒に行っている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が面会に来た際は、随時ホームでの様子を報告している。また、利用者職員がお互いに共生しながら、穏やかな生活ができるよう、家族に相談して助言をいただき、日常生活に取り入れている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や親戚が面会に来た際は、リラックスした時間を過ごせるよう椅子や飲み物を準備したり、交通手段のない方へは送迎をして、馴染みの方との関係が途切れないよう支援している。 | 利用者がこれまで過ごしてきた生活をホームでも送れるよう、馴染みの人や場所とのつながりが途切れないように支援を行っている。また、家族とも連絡を取りながら、訪問者の送迎支援も行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の仲の良さ悪しを把握し、孤立しないよう席を替えたり、休憩場所を考慮しながら設定する等、対応をしている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院等で退去先の関係者に入居中の状況や食事内容等を伝え、環境に配慮してもらっている。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 直接的な訴えは少ないので、表情や行動から把握したり、どのように暮らしたいかを理解するために、家族に意向を聞きながら把握に努めている。 | 利用者の態度や身体の動き等、日頃の関わりを通じて利用者の意向や希望の把握に努めている。また、意向や把握が困難な場合は、家族等から情報収集を行い、職員間でも十分な話し合いをして、支援に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式等を用いて今までの暮らしや生活歴を把握している。また、個人ファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子や体調の変化を見逃さずに日誌に記入し、全スタッフが勤務前に確認している。また、1日1回以上申し送りを行い、利用者の心身状況の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月、全スタッフ参加の下、ケアカンファレンスを開催し、入居者の課題とケアのあり方について話し合っ介護計画を作成している。また、その際スタッフからの意見をケアに反映している。 | 介護計画の実施期間を明示しており、職員会議で全職員による意見や気づきを基に作成し、利用者や家族の意見等も反映させている。また、利用者の身体状況の変化や、利用者・家族等の希望の変化時には随時見直しを行っており、必要に応じて関係機関の意見を聞きながら、個別具体的な介護計画作成を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の普段と違う変化を個人記録や業務日誌の申し送り事項に記入し、全スタッフが確認している。また、実践した援助に対しての結果も記録している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------|--|---|--|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近所の市民センターで行われる囲碁クラブ等の行事に参加したり、利用者の希望に応じて定期的に図書館へ出かけている。 | | | |
| 30 (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう臨機応変に対応している。受診後は家族に電話で報告している。 | 利用者のこれまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診・往診できるように支援している。また、協力病院には、認知症の専門病院や歯科医院・眼科医院があり、受診を支援している。 | | |
| 31 | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約を結び、週1回訪問してもらっている。その際、様々な相談をし、医療との連携がうまくとれている。 | | | |
| 32 | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中も定期的に見舞いに行き、その際、病院関係者と情報交換を密に行い、早期退院に向けた話し合いの場を増やすよう努めている。 | | | |
| 33 (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所としての方針を明確にし、入居時等に説明を行っている。また、医療関係者との連携もスムーズに行くよう関係づくりに努めている。 | 重度化や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしており、利用者と家族、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図っている。また、利用者の状態の急変時には救急車で協力病院に搬送してもらえるよう体制を整えており、利用者や家族等と随時話し合いを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成し、職員に周知している。また、年1回は救命講習を受講できるよう調節している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。その際、非常持ち出し品の点検や確認も行っている。 | 消防署と連携し、年2回、避難訓練を実施しており、その内1回は夜間を想定して行っている。また、町内会の協力者や民生委員、交番等の協力を得られるようになっている。災害時に備えての設備点検や飲料水を準備しているが、食料品や暖房備品等の準備までは至っていない。 | 災害時に備え、飲料水の他に、食料品や暖房備品等を充実させるような取り組みに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ホームの基本理念にも掲げているように「人生の大先輩である」という事を念頭に置き、尊敬する気持ちでケアしている。 | 職員は個人情報保護法や守秘義務について理解しており、利用者一人ひとりの人格や羞恥心・プライバシー等にも配慮しながら、日々のサービス提供に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自分で意思を表現できない利用者も増えてきており、表情等を読み取る等して支援に努め、自己決定できる場面を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床時間、食事時間等を職員側の都合で決めるのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせて支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。また、行事の際は女性の利用者には薄化粧を施す等、支援している。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------|---|---|--|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | (15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 刻みやトロミ食の利用者が多いが、おいしそうに見えるよう盛り付けを工夫している。また、一人ひとりの嚥下状態に合わせて、形態を変えている。 | 入居時に嗜好調査を実施し、好みに応じた献立作りに配慮し、苦手な食べ物には代替食を提供している。利用者と職員と一緒に食卓につき、さりげなく食べこぼしの介助を行い、会話を楽しみながら食事をとっている。また、利用者の能力に応じて食事の後片付け等を行っている。 | | |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事・水分摂取量を把握している。また、利用者一人ひとりに合わせて、コップや食器を変える等の工夫もしている。 | | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声がけ、見守り、介助にて口腔ケアを行っている。 | | | |
| 43 | (16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。それを基に事前誘導を行って失敗を防いだり、オムツ等の使用枚数を減らすよう努力している。 | 介護支援会議を随時行い、オムツの使用等の見直しや確認を行っており、オムツから紙パンツ、ポータブルトイレ、トイレへの移行等、利用者の状況を勘案し、自立に向けた支援を行っている。 | | |
| 44 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取量を増やしたり、食事内容を見直す等、改善を図っている。また、ラジオ体操等の軽い運動を取り入れる等、個々に応じた対応をしている。 | | | |
| 45 | (17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 概ね週2回の入浴であるが、希望により回数を増やしたり、シャワー浴を取り入れられている。 | 基本的に入浴は週2回で、介護度の高い利用者には機械浴を行う等、柔軟に対応している。また、入浴日以外の希望時には足湯や清拭を行い、体調に合わせてシャワー浴等で対応しており、一人ひとりの入浴習慣に応じた支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者一人ひとりの状態を見極め、個々に合わせた休息時間が取れるよう支援している。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が全利用者の薬の内容を把握できるよう、個人の薬箱に内容がわかるような物を入れ、薬が変更になった際も、全職員に周知するよう努めている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の生活歴の情報収集を十分に行い、それに合わせて役割を見出し、力を発揮していただけるよう支援している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日課である散歩はもちろんのこと、買い物等の希望があればその都度対応している。 | 地域行事への参加の他、散歩、買い物、食材の買出し、外食等、利用者の楽しみや気分転換等につながるように、日常的な外出の機会を設けている。また、家族や関係機関と連携し、できる限り利用者の希望が叶えられるように努めており、利用者の身体状況に応じた支援を行っている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ホーム側で金銭を管理することがほとんどであり、日用品等はホーム側が立て替えて支払い、家族に請求している。その際も、家族から預かっているお金を利用して購入していることを本人に伝え、気兼ねなく物品等の購入ができるよう支援している。 | | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------|---|--|--|-------------------|--|
| | | 実践状況 | | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族、友人からの電話をとりついたり、手紙の場合は代筆やポストへの投函等の支援をしている。 | | | |
| 52 (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節毎に調度品を変え、季節感を出す工夫をしている。 | | | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや1人がけの椅子の設定場所に気を配っている。 | | | |
| 54 (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、自宅で使用していた家具等を持ってきてもらえるようお願いしている。家族が運搬できない場合には、ホームの車で取りに行く等の支援をしている。 | | | |
| 55 | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホームでは、安全に入浴できるように取り外し可能な入浴機械を購入して活用する等、利用者の安全な生活支援に努めている。 | | | |